

山口県埋蔵文化財センター第53回展示

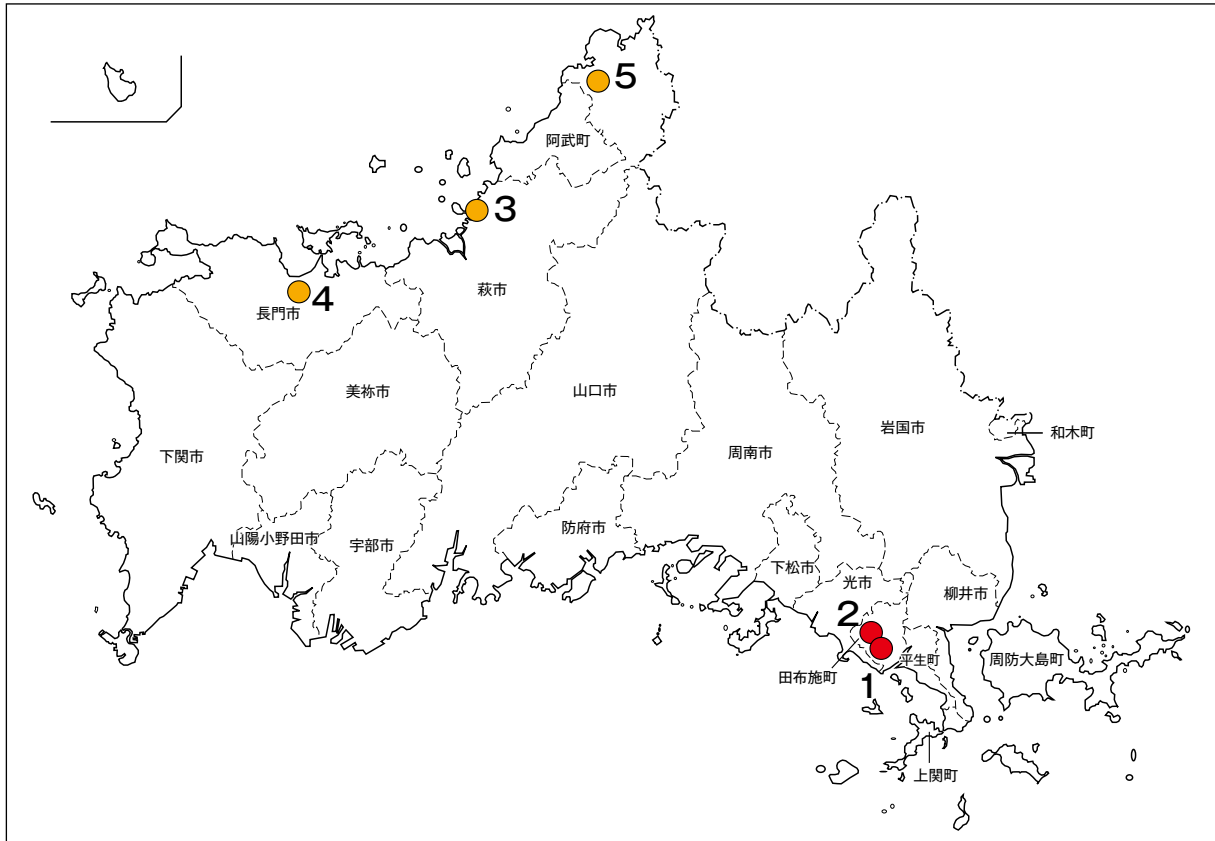
# 掘っちょる山口

— ここから始まる タイムトラベル 時間旅行 —



下平野遺跡(田布施町)発掘調査のようす

発掘調査の成果等



### 遺跡の場所

- 1 下平野遺跡 (田布施町)    2 吉井遺跡D地点 (田布施町)
- 3 萩焼松本窯 (萩市)        4 萩焼深川窯 (長門市)    5 須佐唐津窯 (萩市)

### 展示遺跡年表

中心時期     その他確認された時期

時代	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸	明治		
の遺跡	■			■		■				■			
の時代	■			■		■				■			
の特集展示「発掘された萩」	■												
おもなできごと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狩りをしてくらす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狩猟・漁労・採集を行うムラができる</li> <li>・<b>トロトロ石器</b>が作られる(下平野遺跡)</li> <li>・縄文土器や石器・弓矢が使われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大陸から日本列島に稲作・金属器が伝わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地にクニがつくられる(『漢書』)</li> <li>・<b>集落が営まれる(吉井遺跡D地点)</b></li> <li>・多くの土器が堆積する(下平野遺跡)</li> <li>・ヤマト政権による国土の統一が進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七一〇 平城京に都を定める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七五二 東大寺の大仏ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七九四 平安京に都を移す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一一六七 平清盛が政治の実権をにぎる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一一八五 鎌倉幕府が成立する</li> <li>・<b>集落が営まれる(吉井遺跡D地点)</b></li> <li>・<b>集落が営まれる(下平野遺跡)</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一三三八 足利尊氏が京都に幕府を開く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一四六七 応仁の乱が起こる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一五九〇 豊臣秀吉が全国を統一する</li> <li>・一六〇三 徳川家康が江戸に幕府を開く</li> <li>・一六〇四 萩焼(松本焼)の生産が始まる</li> <li>・一六三七 長州藩銭座が設置される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一八六八 明治維新 江戸を東京とする</li> </ul>



西上空から見た遺跡のようす



作業風景



確認された流路

しもひらの いせき  
**下平野遺跡** (田布施町)

下平野遺跡は、田布施町下田布施にある集落跡です。遺跡は台地の先端部に立地し、鎌倉時代を中心とする遺構のほか、旧石器時代から中世にかけての遺物を多く発見しました。

台地の北端では流路が横切り、その埋没後に鎌倉時代の遺構の多くが築かれたとみられます。掘立柱建物やその周辺の柱穴等からは、土師器の皿や杯、白磁や青磁、常滑焼とこなめの甕、鉄製品や鍛冶滓等、多くの生活用品が出土しました。

また、古墳時代中期頃の土師器の壺や甕が集中して見つかったほか、縄文時代早期の「トロトロ石器」と呼ばれる用途不明の石器も出土しました。

才賀川を北側に臨む台地上で、当時の暮らしを理解するうえで良好な資料を得ることができました。



柱穴から出土した白磁皿

←確認された掘立柱建物の配置  
(黄色は掘立柱建物、白色は柱  
穴が並ぶもの)



まとめて出土した土師器皿



古墳時代の土師器甕の取り上げ



出土した常滑焼の甕 (右は接合後)



用途不明のトロトロ石器



調査区全景



古墳時代初めの竪穴建物



古墳時代の掘立柱建物

よしいいせき  
吉井遺跡D地点（田布施町）

吉井遺跡は、田布施町宿井に位置する弥生時代から中世にかけての集落跡です。丘陵東側の斜面に立地する遺跡ですが、竪穴建物4棟、掘立柱建物3棟の他、土坑や溝などを確認しました。

屋内に焼土坑や焼土塊など、カマドが定型化する以前の燃焼施設をもつ竪穴建物があり、古墳時代初め頃には集落が営まれていたと考えられます。

また遺物の大半を占める壺や甕などの弥生土器が、遺跡南東側の斜面から捨てられた形で出土しています。このことから、当地より西側のより高い場所に弥生時代の集落の中心があったと推測されます。さらに古代の遺物の中には、官衙に関係した役人等が居住していたことを想定させる土器も出土しています。



土師器（はじき）の皿



紡錘車（ぼうすいしゃ）



南東側斜面での掘り込み作業



捨てられたかたちで出土した土器



作業風景

## 〔特集展示〕発掘された萩焼

山口県埋蔵文化財センターは、約50年前から現在に至るまでの発掘調査で発見された多くの出土品を所蔵しています。そして、これらは発見当時はもちろん、現在・未来においても山口県の歴史解明に資する貴重な品々です。本特集展示では、センター所蔵品の中から遺跡出土の萩焼とその関連資料をご紹介します。発掘調査から見えてくる萩焼の生産や消費について解説します。

### 萩焼（松本焼）

萩焼は慶長9年（1604年）、萩城下町東方の松本に朝鮮人陶工 李勺光・李敬兄弟が御用窯（長州藩窯）を築いて陶器を焼いたことに始まります。当初は「松本焼」とよばれ、「萩焼」の名称が登場するのは江戸時代後期（19世紀）です。昭和51～56年（1976～1981年）、松本地区にある坂1～5号窯および林1・2号窯の発掘調査が行われました。その結果、椀・皿主体で生産が始まり、次第に器種を増やしていったこと、重ね焼きには初期はシジミの貝殻が用いられたこと（貝目）、窯は初期には朝鮮半島の窯に似た全長30m近い規模のもので、次第に小型化していったことなどがわかっています。



萩焼最古の窯（坂1号窯）



窯の焚口部（坂3号窯）



貝目の痕



### 萩焼（深川焼）

17世紀中ごろ、藩の援助のもと現在の長門市深川で新たに窯が築かれます。ここで焼かれた陶器は、萩の「松本焼」に対し、「深川焼」とよばれました。その後、藩の支配を離れて民営化し、食器・調理具などを主に生産します。昭和58～63年（1983～1988年）、深川地区にある東ノ新窯、本窯、西ノ窯の発掘調査が行われました。その結果、小型の椀を多く生産していたこと、初期には重ね焼きの際に粘土のかたまり（胎土目）をはさんでいたことなどがわかりました。また、白と黒の釉を網目のようにかけた「ピラ掛け」や、高台（茶椀の一番下の部分）の渦巻状削りが深川焼の特徴であることも確認されました。



西ノ窯



本窯（後方）と物原（ものほら）  
\*物原は失敗した焼物を捨てた場所



ピラ掛け椀と渦巻状削り

## 須佐焼

萩焼に近い陶器で、松本焼に劣らない歴史を持っています。現在の萩市須佐町唐津で、江戸時代前期（17世紀）に生産が開始されました。この地を治めた家老益田家の御用窯の性格も持ち、限られた時期に「須佐青磁」を焼いていることでも注目されています。昭和57年（1982年）、3号窯周辺の発掘調査が行われました。その結果、初期は椀・皿主体で佐賀県唐津焼と同様な製品を焼いていたこと、江戸時代中期には播鉢主体に転換したこと、「胎土目」を用いて重ね焼きする伝統を守っていることなどがわかっています。

また、近年の研究で須佐焼の播鉢が山陰・北陸から北海道まで流通していたこともわかってきました。



3号窯



須佐焼の播鉢



胎土目による重ね焼き

## 発掘調査から見た萩焼

萩城下町で発掘調査すると、陶磁器に占める萩焼（松本焼・深川焼）の割合は意外に高くはないことがわかります。実際には須佐焼・唐津焼・京焼・美濃焼などの陶器や、伊万里焼・瀬戸焼などの磁器が同時に使われています。特に椀・皿では、伊万里焼の割合が高くなっています。また、深川の窯で大量に焼かれた「ピラ掛け」の椀は、じつは萩城下町からはほとんど見つかりません。逆に江戸・関西・山陰などの遺跡から出土しており、藩外への販売を目的に焼かれたようです。萩焼の特徴のひとつに、高台の一部に切れ目を入れる「切高台」があり、町人が殿様に遠慮して「傷もの」に見える茶碗を使った、という説があります。しかし、江戸時代の町人が使った萩焼茶碗には切高台がなく、その説の証明はできません。



萩城下町の町屋跡



萩城下町出土の陶磁器



町人が使った萩焼椀

### 山口県埋蔵文化財センター 利用案内

- 開館時間 午前8時30分～午後5時
- 休館日 土・日曜日、国民の祝日、年末・年始
- 入館料 無料

編集・発行 公益財団法人山口県ひとづくり財団  
山口県埋蔵文化財センター  
〒753-0073 山口市春日町3番22号  
TEL:083-923-1060 FAX:083-923-2001  
URL: <http://www.y-maibun.jp/>